

金融リテラシー入門

第5章：「海外旅行」

はじめに

ここまでは国内での生活において計画的にお金の管理をすることの重要性を学んできたが、海外に旅行をする際や海外で生活をする際にも同じことが言える。旅行だからと無計画に無駄遣いをしていたら、財産を失ってしまい、後で惨めな思いをすることになるかもしれない。

海外旅行や海外での生活でのお金の管理で注意しなければならないのは、外国と日本では使用する通貨が異なることだ。観光地などでは日本円が通用する国もないわけではないが、ほとんどの国では現地通貨以外はうけとってもらえない。日本円で1,000円と言えば、どれぐらいの価値か想像がつくが、1,000タイバートの価値はタイ国で生活をしたことがない人には想像することさえ難しいだろう。通貨の価値がわからなければ高いか安いかの判断もできない。つまり、高い買い物をして無駄にお金を使ってしまう危険性もあるのだ。

「1,000タイバートは日本円でいくらになるのか？」それを決めているのが為替レート（為替相場）である。

為替レートとはどのようなもので、どのように決まっているのか。為替レートを理解して、海外でも賢くお金が管理できるようになる。

1. 自分事として考えよう

当面、海外に行く予定がない人たちにとっては具体的なイメージがわからないかもしれないが、なるべく自分事として考えるよう

にしよう。

今は海外に行く予定がなくても、夏休みや卒業旅行、新婚旅行などで海外に行く学生は多いだろう。自分が海外に行く場合にどうすればよいのかを具体的に考えてみよう。

計画を立てたら、その計画にいくらかの費用が必要なのか、特に重要なのは、現地の通貨でいくらのどれだけのお金が必要なのか。

現在の世界では、米国のドル、ヨーロッパの国々のユーロが主要な通貨だが、それ以外にも多くの通貨がある。アジアの国々は国ごとに使用されている通貨が異なるし、ヨーロッパの国の中にもイギリスのようにユーロを使用していない国もある。

2. 為替レートを理解する

1ドルの価値は2016年3月時点では、およそ120円だが、この交換比率が為替レート（為替相場ともいう）である。世の中にはドルを円に交換したい人もいれば、逆に円をドルに交換したい人がいるので、ドルと円の交換はいたるところで行われている。交換比率は誰が決めているわけでもないの、為替レートを無視して、1ドルを100円と交換してもいいし、140円と交換してもいいが、ある時点でこれらの比率での交換がいずれも可能であれば、頭のいい人は1ドルを100円で売って、140円で売ろうとするだろう。多くの人がそのような考えで行動するようになると、誰も1ドルを100円で売ろうとはしなくなり、1ドルを140

円で買おうとはしなくなり、多くの人がほぼ同じ交換比率でドルと円を交換するようになる。この比率が為替レートだ。

東京でもニューヨークでもドルと円の交換比率が同じというのは不思議な気がするが、もしもドルの価値が東京とニューヨークで異なっていれば、安い方でドルを買って、高い方でドルを売ることにより利益が得られるため、そうした利益追求の結果、現在では世界中どこでもドルと円の為替レートはほぼ同じになっている。

旅行先で使われている通貨の為替レート、すなわち、現地通貨が日本円でいくらなのかをインターネットなどで調べてみよう。

3. 変動相場と固定相場

為替レートは異なる2つの通貨の交換比率であり、基本的にはそれらを交換したい人たちの自由な交換によって自然に決まるものである。

たとえば、ドルと円の為替レートであれば、ドルを買いたいという人たちが増えるとドルの価値が高くなり円の価値は低くなる(円安ドル高)。逆にドルを売りたいという人が増えればドルの価値が下がり円の価値が高くなる(円高ドル安)。

ニュースで為替レートが報道され、日々その水準が変化しているが、その変化はドルに対する需要と供給の変化によって起きている。このように市場での需給によって為替レートが変化する仕組みを変動相場制という。

野菜の値段が需要と供給で決まるように、為替レートが需要と供給で決まる変動相場制はある意味で自然な仕組みと言えるが、頻繁に海外旅行をする人や外国との貿易を

している人たちにとっては将来の為替レートがわからないのは大きな不安材料である。

たとえば、海外の100ドルのバッグ100個輸入して、国内で販売するビジネスをあなたが計画しているとしよう。海外のバッグ店と交渉をして、いざ10,000ドルを準備しようとしていたら、為替レートがドル高に変わって、1ドル120円から、1ドル200円に上昇したら、あなたは儲けるどころか大きな損をしてしまうことになりかねない。

為替レートが不安定であればあるほど、為替リスクを恐れる人々は海外との取引に消極的になってしまう。

このような事態を避けるために、自国の通貨と主要な通貨(現在ではドル)との交換比率を中央銀行が固定している国がある。たとえば、日本銀行に行けば、いつでも1ドルと100円を交換してくれるとしよう。どんなに多くの人がドルを買っても日本銀行が1ドルを100円で売り続けるならば、1ドルの価値が上がることはない。逆にドルを売りたい人がどれだけ増えても、日銀が1ドルを100円で買い続ければ、ドルの価値が下がることもなく、為替レートは常に維持される。これが固定相場制である。

第2次世界大戦後、1971年まで、円とドルのレートは1ドル360円で固定されていたが、その後変動相場制に移行し、現在に至っている。

4. 為替リスク

変動相場制の下では為替レートは通貨に対する需要と供給によって変化する。

たとえば、ドルに対する需要は米国からの輸入が増えることで増加する。また日本銀行が金融緩和をして市場に円資金を大量

に供給することでもドル高が起こることが知られている。

為替レートは天候や自然災害などを含む様々な要因によって変化している。もし為替レートの変化を正しく予想できるなら、それを利用して利益をあげることが出来る。ドルの価値がわかるとわかっていれば、安いうちにドルを買って、高くなってから売れば利益を手にできる。

「FXで利益あげた」という話を聞いたことがあるかもしれないが、その利益はまさに為替レートの変化による利益である。簡単に利益が上げられると考えている人がいるかもしれないが、実際には予想は困難である。素人でもわかる予想はすでに為替レートに織り込み済みであり、これからどのように変化するかは専門家でも予想が難しい。

為替レートの変化は予想が難しく、そのために予想外の損失を被るリスクがある。それが為替リスクである。貿易や海外への投資はもちろん、海外旅行に行く際にも為替のリスクはあるので注意をしよう。

***Homework 実施についての注意事項**

為替リスクの学習を思い出してみよう。

Caseや**Work**で検討した為替レートについて復習し、数か月後に海外旅行に行く場合や、半年後、1年先のいずれかの場合を想定し、また滞在期間なども考慮して現金とクレジットカード決済の比率を考えてみよう。また、現金を持つことのリスクも合わせて検討してみるとよい。